

ダイバーシティリレーエッセイ～様々なひとの多様な視点～

無意識のバイアス

Unconscious Bias

持田 美緒

男女共同参画委員会の企画で始まりました、リレーエッセイの第2回目です。表題はダイバーシティとしていますが、「日頃思っていること、悩んでいること、育児や介護、キャリア、グローバル化など、自由に想いを書きいただきたいと思います。若手研究者の活躍推進に関するエピソードもWelcomeです。」ということで、個人的に思っていることを書いてみます。

私は男女共同参画委員になってから学会で企画されたシンポジウムなどに参加するようになりました。それまで接することがなく知らなかった内容に触れる機会が得られ、刺激を受けることが多く、狭くなっていた視野が広がったかなと思います。

70周年記念事業で開催された「無意識のバイアス」の講演を聞き、自分の人生を振り返ると思い当たることがたくさんありました。

春期・秋期大会で開催されている女性の会での話題として「理系に進んだ理由」を話すことがありました。私は中学生当時、故障した家電製品を直してみたいという単純な理由で電気屋さんになりたいと思ったことがあり、電気系の勉強をしたいと進路相談に臨みましたが、「女性の就職先がないかもしれないよ」というアドバイスで、比較的女性の割合が多かった化学系の学科に進みました。35年以上も前のことです。社会風土・経験からのアドバイスとして受けた言葉は、今になってみるとバイアスだったと思います。このように私自身、10代前半は両親や担任の先生など身近な大人の影響を大きく受けており、意識的な、もしくは無意識な考え・言葉に左右されていたと思います。

私が就職した30年前に比べると、理系女性比率は先輩方の頑張り、さまざまな取り組みにより増加してきていますが、それでもまだ比率が低いのは、女性が理系に進まない理由や背景がいまだに以前と変わっておらず、意識されていないのではないかという気がしています。

無意識なことは他人に指摘されないと意識できない難しい部分がありますが、社会・時代は常に変化していることを肝に銘じ、次世代に向けた言葉には気をつけようと改めて思う次第です。

リレーエッセイでは冒頭にあるような内容で、多くの方からの寄稿をお待ちしております。



以前に作成した似顔絵です

国際的な交流を進めるうえでの学び

Lessons for proceeding international fellowship

河原 康仁

ノルウェー科学技術大学 (NTNU) に研究留学した際の体験について、紹介します。ノルウェーは自然が豊かであり、アウトドアな人が多い国という印象を受けました。実際にクロスカントリーやハイキングに行く機会も多く、優雅なひと時を過ごすことができました。また、サウナ好きの私にとって、北欧のサウナ文化に触れることができたことも非常に幸運で、サウナで十分温まった後に、真冬の家や雪の中へ博士の同期たちと飛び込んでいったことは良い思い出です。

留学先のNTNUでは、Al-Mg-Si-Cu合金におけるクラスターの構造を原子分解能STEM法で解析するというテーマに取り組みました。それに加えて、導入されて間もない新しい検出器を用いた解析手法(4D-STEM法)によるクラスターの解析にも携わりました。材料的な面白さに加えて、新しい解析手法を始める難しさについても学ぶことができ、非常に有意義な機会でした。原子分解能でデータセットを取得するためにはどのような条件が必要なのか、どのような情報をデータセットから抽出することができるのか等について、技術スタッフや博士の同期と議論し、実験を進め、観察・解析が上手くいったときの感動は今後忘れないと思います。また、研究留学は海外との研究スタイルの違いや自身の研究の位置づけを再確認できた貴重な機会であったと思います。

ノルウェーへ留学する際に、目標の一つとしていたことは、外国人の友人をつくることでした。留学して間もなくは、博士の同期たちとコミュニケーションをとることもおぼつかなく、毎日が非常にストレスだったことを覚えています。しかし、スポーツや共通の趣味、研究と一緒に取り組むことで、徐々に円滑にコミュニケーションが取れるようになっていきました。言葉以外の手段も有効活用して、積極的に交流を試みる重要性を感じる5か月間の滞在でした。



写真は留学時(2022年9月～2023年2月)にHolmestad先生宅でホームパーティをいただいた時のもの。右から二番目が筆者、一番右側が技術スタッフのChristiansen氏、左から三番目が両テーマ共に多くの議論を行った博士同期のHell氏